

特集：ネットワークコミュニティにおける学習・教育支援

SNS の活用による e メンタ負担軽減のための学習 計画機能の開発と評価

齋藤 裕*, 七田麻美子*, 石川浩一郎*

Development and Evaluation of Study Planning Function for Reducing Mentors' Workload by Utilizing SNS

Yutaka SAITO*, Mamiko SHICHIDA*, Koichiro ISHIKAWA*

1. はじめに

現在、学習管理システム (Learning Management System: LMS) などの基盤整備, 良質な学習コンテンツの開発という段階を経て, 高等教育機関や社会人を対象とした e ラーニング研修, 講座が活発に行われている。しかし非同期分散型の学習環境において自己調整学習 (Self Regulated Learning: SRL) を行う e ラーニングでは, 修了率や満足度の向上などの問題は, 依然として残されている。その解決策としては, 学習支援活動の有効性が指摘されており⁽¹⁾, 学習支援に必要なスキルを認定する資格も登場するなど⁽²⁾, 学習支援者 (e メンタ) への注目, 需要が高まっている。一方で, その活動が広まるにつれ課題点も見えてきており, その一つとして e メンタの負担増大がある⁽³⁾。

e メンタは, あらかじめ決められたメンタリングガイドラインとメンタリングアクションプラン (以降アクションプランとする) を基に活動している⁽⁴⁾。従来, アクションプランは, 円滑な学習行動の支援を第一目的として作成するが, 学習者の学習進捗管理には困難さがある。その理由の一つとして, 学習者がいつ学習する予定であるのかが事前にわからないことが指摘されている⁽⁵⁾。実際に, 一般的な学生の場合, 学習計画習慣がないことも多く, 学習期間終盤の駆け込

み受講に繋がるという問題点があり, その解決に寄与するメンタリング方法なども示唆されている⁽⁵⁾。一方, 社会人は, 学生に比べ学習計画を立案できる場合が多いが, 学習に割ける時間が制約されるなどの理由で, 学習期間終盤に集中的に学習する計画を立てる学習者も多い⁽⁶⁾。このような社会人特有の状況では, あらかじめ学習者の学習計画を把握せず学習支援を実施した場合, 必要以上に学習者に働きかけを行うことで, かえって学習意欲を失わせる可能性があるだけでなく e メンタの負担も増大する。こうした問題に対応するためアクションプランを個々の学習者ごとに作成することも考えられるが, アクションプランを作成する負担が大きくなり, e メンタの負担軽減という問題の解決にならない。

そこで, 本研究では, 社会人を対象にした e ラーニング研修, 講座において, アクションプランの内容を大きく変更することなく, e メンタの負担を軽減させ, 学習者に対して必要以上の能動的支援を行わないことを目指し, 学習計画を把握するための機能を開発する。また e ラーニング学習を含む社会人向け講座における, 実際の学習支援活動を通して開発機能の評価を行う。

* 青山学院大学ヒューマン・イノベーション研究センター (HiRC) (Aoyama Gakuin University)

受付日: 2010年5月21日; 再受付日: 2010年8月2日; 採録日: 2010年10月13日